9　番組番号（ＰＲ）は、番組を識別する番号であり、ＳＶに続く２バイトの２進値で、「０」～「65279」の範囲で番組を識別する。

10　使用方式数（ＮＭ）は、ＰＲで指定される番組を構成する符号化方式の数（ｍ）を示す。ＰＲに続く１バイトの２進値で「１」～「255」の範囲でｍを指定する。

11　符号化方式（ＭＩ）は、画像、音声及びデータ等を構成する信号の符号化方式を示し、１バイトで符号化方式を指定する。なお、以下で規定しないものは、未定義とする。

符号化方式（ＭＩ）									
	ｂ８	ｂ７	ｂ６	ｂ５	ｂ４	ｂ３	ｂ２	ｂ１	
特殊用途	0	0	0	0	0	0	0	1	データ多重放送関連情報
					0	0	1	0	本体放送の関連情報をデータ多重放送の関連情報として使用（注１）
					0	0	1	1	時刻信号
文字	0	0	0	1	0	0	0	0	
ファクシミリ	0	0	1	0	0	0	0	0	
静止画	0	0	1	1	0	0	0	0	標準静止画
本体放送（注１）	0	1	1	1	0	0	0	0	標準テレビジョン放送
テレソフトウェア	1	0	0	0	0	0	0	0	
複合データ（データクラスタデータ（注２））	0	1	0	0	0	0	0	0	複合データ（データクラスタデータ（注２））
複合データ（データセグメントデータ（注３））	0	1	1	1	0	0	0	0	字幕
					0	0	0	1	テレミュージック

（注１）　ＭＩのｂ８～ｂ１が“00000010”、“01110000”及び“01110001”の場合、伝送制御データの中のＬＣＤ１、ＬＣＤ２及びＤＳを次のとおりとする。

ア　ＭＩが“00000010”の場合、ＬＣＤ１＝“00001”（ｂ５～ｂ１）、ＬＣＤ２＝“000000”（ｂ６～ｂ１）、ＤＳ＝“000”とする。

イ　ＭＩが“01110000”及び“01110001”の場合、データ多重放送の番組を構成するデータを本体放送の関連情報で伝送していることの有無を示す。

ＬＣＤ１＝“00001”（ｂ５～ｂ１）：有

ＬＣＤ１＝“00000”（ｂ５～ｂ１）：無

(ｱ)　ＬＣＤ２のｂ６～ｂ１で番組を構成する映像・音声の有無（１：有、０：無）を示す。

ｂ６：映像

ｂ５：標準テレビジョン文字多重放送（字幕）

ｂ４：音声第４チャネル

ｂ３：音声第３チャネル

ｂ２：音声第２チャネル

ｂ１：音声第１チャネル

(ｲ)　ＤＳ＝“000”とする。

（注２）　蓄積して処理するためのデータをいう。以下同じ。

（注３）　実時間で処理するためのデータをいう。以下同じ。

12　論理チャネル指定１（ＬＣＤ１）は、ＭＩに続くバイトのｂ５～ｂ１の５ビットで指定するものとし、次のとおりとする。

⑴　多重副搬送波を使用する伝送方式の場合

注11の（注１）の場合を除き、信号を伝送する論理チャネルのＬＣＩ１の値を指定する。

⑵　垂直帰線消去期間を使用する伝送方式の場合

注11の（注１）の場合を除き、伝送ラインを指定する値とする。

⑶　音声信号副搬送波を使用する伝送方式の場合

注11の（注１）の場合を除き、データ信号副搬送波を指定する値とする。

13　論理チャネル指定２（ＬＣＤ２）は、注11の（注１）の場合を除き、伝送する論理チャネルのＬＣＩ２の値を指定する。ＬＣＤ１を含むバイトに続くバイトのｂ６～ｂ１の６ビットで指定する。

14　データ構成（ＤＳ）は、注11の（注１）の場合を除き、ＬＣＤ１及びＬＣＤ２で指定する論理チャネルのパケットデータ及びデータグループのデータ構成を示す。ＤＳはＭＩに続くバイトのｂ８～ｂ６の３ビットとする。パケットデータの構成をｂ８により「０」で指定し、その他を未定義とする。データグループ構成をｂ７及びｂ６の２進値により指定し、ＤＧ構成１を「１」、ＤＧ構成２を「２」、その他を未定義とする。

15　ＴＣＤの第１バイトのｂ６及びｂ５の２ビット、ＴＣＤの第４バイトのｂ６～ｂ１の６ビット及びＬＣＤ２を含むバイトのｂ８及びｂ７の２ビットを未定義（ＮＡ）とする。

16　ＴＣＤは、ＤＧ構成１のデータグループで伝送するものとし、次のとおりとする。

⑴　多重副搬送波を使用する伝送方式の場合

ＬＣＩ１を２進値で「２」、ＬＣＩ２を「１」とする論理チャネルで伝送する。データグループでは、ＤＧＩ１を「０」とし、ＴＣＤはＤＧＤのＤＤ１から配列する。

⑵　垂直帰線消去期間を使用する伝送方式の場合又は音声信号副搬送波を使用する伝送方式の場合

ＬＣＩ２を２進値で「１」とする論理チャネルで伝送する。データグループでは、ＤＧＩ１を「０」とし、ＴＣＤはＤＧＤのＤＤ１から配列する。

17　１つのＴＣＤは、次のＴＣＤが有効となるまで、当該データチャネルで伝送する全ての番組の伝送を制御する。

18　ＴＣＤの送出は、次のとおりとする。

⑴　多重副搬送波を使用する伝送方式の場合

当該番組のデータが送出されるマスターフレーム（平成23年総務省告示第294号（フレーム行列の構成及び制御手順、音声信号の送出手順並びにデータパケットの送出手順）でいう「マスターフレーム」のことをいう。）の先頭より少なくとも１マスターフレーム周期前に送出を完了することとする。ただし、送信した伝送制御データは、次の次のマスターフレームの先頭から有効とする。

⑵　垂直帰線消去期間を使用する伝送方式の場合

当該番組のデータが送出されるフィールドより少なくとも１フィールド周期前に送出を完了することとする。ただし、送信した伝送制御データは、次の次のフィールドから有効とする。

⑶　音声信号副搬送波を使用する伝送方式の場合

当該番組のデータが送出されるデータ信号のフレームより１フレーム周期前までに送出を完了することとする。

別表第一号　ファクシミリ信号の構成及び送出手順

項目	内容
１　データグループの種別	ＤＧ構成１又はＤＧ構成２とする。